

課題名	通電後QRS波形変化を認めるヒス束近傍特発性心室性不整脈に対する解剖学的アプローチの有効性
承認番号	2021-10 番
研究機関名	横浜市立みなと赤十字病院
研究責任者	所属 循環器内科 氏名 山内 康熙
研究期間	西暦 2021 年 6 月 (委員会承認後) ~ 西暦 2022 年 12 月
研究の意義・目的	<p>心室流出路起源の特発性心室性不整脈において、カテーテルアブレーション(心筋焼灼術)を施行した後に心電図の波形が変化して再発することがあります。その場合、起源や不整脈の伝導路が変化していると考えられ、最初にアブレーションを行った部位の近くを追加で焼灼しなければならないことがあります。</p> <p>ヒス束と言われる、心臓の電気の通り道のちょうど中間地点にある組織の近くから発生する心室性不整脈に関しては、アブレーションを施行した後に心電図波形が変化して再発する症例報告はほとんどなく、アブレーションによる心電図所見の変化と不整脈起源の変化の関係、そしてそのような再発症例に対するアブレーションの具体的な方法に関しては未だ不明であります。</p> <p>本研究では多施設から集めたヒス束の近くに起源を有する心室性不整脈のうち、アブレーションで心電図波形が変化した症例を対象として、心電図波形やマッピング所見の特徴、ヒス束周囲の組織である心室中隔や大動脈基部からのアブレーション(解剖学的アプローチ)の有効性に関して検討することで、治療成績の向上を図ることを目的とします。</p>
研究の方法 (対象期間含む)	2016 年 4 月~2021 年 12 月にかけて、ヒス束の近くに起源を有する心室性不整脈のうち、アブレーションで心電図波形が変化して再発した症例を対象とし、患者さんの年齢、性別、身長、体重、合併疾患や検査結果等の情報、カテーテルアブレーション中の心内心電図や12誘導心電図波形、マッピング所見、アブレーションの結果や周術期合併症、再発の有無などを調査して解析を行います。
試料・情報の利用目的及び 利用方法 (匿名加工する場合や他施設へ提供 される場合はその方法を含む)	<p>ヒス束の近くに起源を有する心室性不整脈に対してカテーテルアブレーションを施行した症例を多施設から集め、アブレーションで心電図波形が変化して再発した症例を対象とし、後ろ向きに評価します。</p> <p>各研究協力施設の医師は、本研究に該当する患者さんの背景(合併疾患など)、マッピング所見、アブレーションの結果、退院後の再発有無などについて、当院に情報提供いただきますが、情報の中には氏名や住所、生年月日などの個人を特定できる情報は一切含みません、また、データ解析の際には匿名で行うためプライバシーは保護されております。</p>
利用又は提供する 試料・情報の項目	年齢、性別、身長、体重、合併疾患や検査結果等の情報、カテーテルアブレーション中の心内心電図や12誘導心電図波形、3Dマッピング所見、アブレーションの結果や周術期合併症、再発の有無など
試料・情報を 利用する者の範囲	循環器内科 山内 康熙、その他循環器内科医師
試料・情報の管理における 責任者の氏名又名称 (当院及び提供先)	循環器内科 山内 康熙

問い合わせ先	当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 所属 循環器内科 氏名 山内 康熙 TEL:045-628-6100 (代表) 内線 3808 (事務局) / FAX:045-628-6101
--------	--